幼児の教育　第一〇六巻　第八号　平成十九年八月一日(毎月一回発行)昭和二十三年四月十五日第三種郵便物認可

最新刊

子どもと親を幸せにする保育者・支援者のための

保育カウンセリング講座

伊志嶺美津子　編著

保育カウンセリングは、一人ひとりの子どもやその親の成長・発達をサポートし、望ましい援助的なかかわり方をするためにはなくてはならないものです。
いま、保育・幼児教育、子育て支援の現場で最も必要とされている保育カウンセリングの理論と技術を明らかにします。

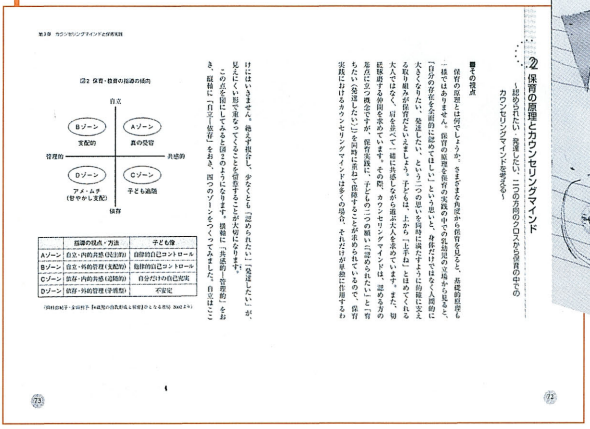

第3章　カウンセリングマインドと保育実践

図2 保育・教育の指導の傾向

自立
Bゾーン 支配的
Aゾーン 真の受容
管理的　共感的
Dゾーン アメ・ムチ（甘やかし支配）
Cゾーン 子ども過護
放任

	指導の視点・方法	子ども像
Aゾーン	自立・内的共感（受容型）	自律的自己コントロール
Bゾーン	自立・外的管理（支配型）	他律的自己コントロール
Cゾーン	放任・内的共感（過護型）	自分だけの自己肯定
Dゾーン	放任・外的管理（甘やかし型）	不安定

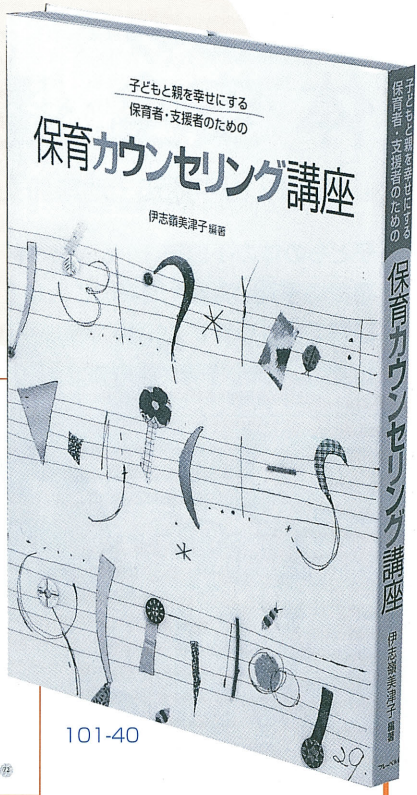
（岡田直樹子・金田利子『和感覚の教育』東京：学文社、2002より）

■その視点

保育の原理とは何でしょうか。さまざまな角度から原理を見ること、基礎的原理もあります。保育の実践を保育の中心的課題の中心から見ること、大きな方向性を示唆しています。「保育の原理」とは、「子どもの発達に寄与する取り組みの原理でもあります。子どもは、「おかあさん」と呼んでくれる大人がいるだけで、何をさて、一緒に共感しながら歩ませて、まず、初期感覚に立つ視点ですが、保育実践に、「子どもの願いを汲み取ること」と「育ちたい発達したい」を同時に求めていることが求められているので、保育実践におけるカウンセリングマインドは多くの場合、それだけが単独に作用するわけではいきません。様々な視点、少なくとも「認められたい」「発達したい」が、見えない糸のようなものとなるとすれば、「共感」「受容」「おまき」、縦横に「自己肯定」を織き、四つのゾーンをつくってみました。「自立」はこ

②保育の原理とカウンセリングマインド

―出発点は「願い」「願望」だ！　三つの方向のクロスから保育の中でのカウンセリングマインドを考える



101-40

もくじ

第1章　保育カウンセリングとはなにか
第2章　子ども理解とカウンセリングマインド
第3章　カウンセリングマインドと保育実践
第4章　カウンセリングの基礎と親理解
第5章　保育者とカウンセラーの役割
第6章　カウンセラーとしての自己理解
第7章　子育て支援の現場とカウンセリング

21×15cm／232頁
定価1,680円（税込）

定価　五五〇円（本体五二四円）☆

キンダーブックの
フレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業総括部 (03) 5395-6608にお問い合わせください。